

狐種類

〔運歩色葉集比〕白狐ビヤク

〔日本書紀二十六〕三年九月石見國言白狐見

〔續日本紀三十七〕延暦元年四月乙丑重閣門白狐見

〔本草綱目譯義五十一〕狐

近年奥州カラ黒狐皮ノキタルアリ、松前ヨリ黑白交ル狐皮來ル、會津ヨリウス黒ノ皮モキタル、

〔東遊記五〕秋田落

奥州の内にて黒き狐を見たり、上方には無きもの也、蝦夷地には有るよし兼て聞けり、純黒なる狐の皮は尤珍重する事なり、我見たりしは、あまり見事なる黒色にてはなかりし、

瑞狐

〔延喜式二十一〕祥瑞

九尾狐神獸也、其形赤色、或曰白狐、岱宗之玄狐神獸也 右上瑞〇中

赤狐〇中 右中瑞

〔松屋筆記六十五〕白狐非瑞物

今俗白狐を瑞物とし、九尾狐を妖物とするは誤也、九尾狐の祥瑞なることは、延喜式にも見え、漢籍の所見おほかるは、已に六十四の卷にいへるがごとし、古微書十一春秋潛潭巴に、白狐至國、名利不至、下驕恣云々とありて、白狐は靈瑞の物にあらず、

〔續日本紀六元明〕靈龜元年正月甲申朔、遠江國獻白狐

〔續日本紀八元正〕養老五年正月戊申朔、甲斐國獻白狐

〔續日本紀十三聖武〕天平十二年正月戊子朔、飛驒國獻白狐、白雉

〔續日本紀五元明〕和銅五年七月壬午、伊賀國獻玄狐、九月己巳詔曰、〇中況復伊賀國司阿直敬等所

獻黒狐、即合上瑞、其文云、王者治致太平、則見思與衆庶共此歡慶、宜大赦天下、其強竊二盜常赦所不